

埼玉県立高等学校の共学化に関する意見交換会（高校生の部・北部会場）

1 日時 令和7年8月21日(木) 14:00～16:00

2 場所 熊谷文化創造館 さくらめいと 会議室2

3 参加者 7名

4 教育局参加者

高校改革統括監 依田 英樹

県立学校部副参事 出井 孝一

5 概要

(1) 依田高校改革統括監 挨拶

(2) 意見交換会

(依田 高校改革統括監)

進めていきたいと思います。先ほど司会から、話がありましたように可能な範囲で自己紹介をいただくとともに、ご自分のお考えについて簡潔にお話をいただいて、そのお話を基に、これからの意見交換を展開していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

では、Aさんからお願いします。

(A)

埼玉県の共学化に関して様々な意見があるかと思うんですけれども、よくネット上に出ているのが、異性がない環境で勉強に集中ができるとかありますが、正直つまらないので別の理由を持ってきました。設備に関してなんですけれども、本校に限った話ですと共学化すると大変設備が脆弱になるのではないかと思います。例えばプール棟ですと女子更衣室は存在するんですけど、教室棟に関しては男子トイレしかもちろんないので、仮に共学化した初年度に50%の女性が入ってくるっていう計算をしても、大体男子トイレのトイレの個室の数が80人に1個という計算になるんですよね。現状は大体53人に1個なんですけれども、昼休みだと待ってる人がいたりするのをよく見るので、それが、さらにきつくなるっていうのは、正直勘弁だと思います。

あと、部活動の種類です。別学では、男子〇〇部、女子〇〇部のように、分ける必要がないので、部活動の種類が豊富であるというのは、需要としても存在するのかなと思っています。

あと同じような理由で、行事に関してです。男性は男性にあった、女性には女性にあった教育ができるので、きめ細かい教育っていうのはできるのではないかと思います。

以上のことから、別学校を潰してまで、将来男性と女性が結局接するのだから共学化をするというのは、大変許し難いものがあるんじゃないかなと思うので、私は反対いたします。

(B)

自分は県立の男女別学校の共学化に断固反対します。

(C)

私も先の2人と同じく、私も共学化には反対という形を取らせていただきます。理由としては、市民の血税を払ってまで共学化するメリットよりも、私はデメリットの方が大きいと思っているので、このような意見とさせていただきました。

詳しいことは長いので、後程の意見交換でお話しします。私としては、男しかないとか、女しかないっていう、今では珍しい環境の中で、普段から伸び伸び生活して、それで同性しかないからこそ話せる話題で、一緒に話したりして、中には共学校の人たちだったら、なかなかみづらいようなところまで、そういうふうに入話を入れられるっていうのも、別学校の良さだと思っているので、お互いをよく知れて切磋琢磨できるのが男子校の魅力なので、残していただきたいなと思います。

(D)

私が意見交換会に参加したのは僕は男子校なので、共学とか女子校の人たちと関わる機会というのがあんまりなかったんで、そういう人たちと意見交換できる機会があればいいなと思ったからです。私の気持ちとしては感情論になってしまうのですが、男子校は楽しいので、そういうのを後輩たちにも味わってもらえるような場所があってもいいんじゃないかなと思います。しかし、やはり少子化っていうのは本当にもう目をそむけようとしても、どうしようもないような状態だと思っていて、特に県北は少子化が早く進んでいるところであると思うので、将来もしかしたら共学化になってしまうのかなと思いながら、でも残してくれるとありがたいなと思います。

(E)

私も共学化の推進には反対の立場をとらせてもらいます。埼玉県教育制度として、今のような共学と別学の両方選べるところが魅力だと思っているので、それを無くすのはやっぱり将来の後輩とかにもよくないと思うので、今日は女子校が一人なので、女子校の良さを伝えられるように話していこうと思います。よろしくお願いします。

(F)

自分も男女共学化には反対の立場であって、今選挙とかのニュースとかもよく見るんですけど、その中でもジェンダーとか、そういう話題も多く取り上げられている中、埼玉県には男子校、女子校があって、その良さを発揮できるような意見交換会にしていきたいと思います。よろしくお願いします。

(G)

本日はこういう機会を設けさせていただいてありがとうございます。共学化が良いとか、別学が良いっていう2極端で意見を出すのではなくて、せっかく県教育委員会と話せる機会を設けていただいたので、どっちが良い、どっちが悪いという意見ではなくて、中立の立場で今日は話したいと思います。よろしくお願いします。

(依田 高校改革統括監)

一通り、皆さんからお話を伺いましたので、今お話をいただいた内容を中心にこれから意見交換を展開していこうと思います。今、意見いただいた中で設備の話が出ました。今まで東部、西部、南部の順番で話をしてきたんですけども、設備の話は南部で少し出ましたが、あまり設備の話について言及がなかったので、聞いてみたいと思います。

男子校の話は今、Aさんから聞いたから、女子校の状況を聞いてみたいと思います。女子校はもし男子が50%入学したすると、男子のトイレというのはどのくらいあるのかな。

(E)

何人に1人か分からないのですが、女子校も結構休み時間は、男子トイレが少ないにも関わらず女子は結構並んでいるので、それを踏まえて男子が増えるとなると厳しいところあるのかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

AさんとEさん以外にも、今の学校の設備の中で、男子校であれば女子が入学すると難しいというようなことはトイレ以外にありますかね。

例えば部活動をやる際には、校庭の広さだとか、あとは体育館だとか、そういったところは男女が共に揃った時には男子校や女子校ではどうでしょうか。設備的にここは難しいとかっていうことがあれば、教えてもらえると嬉しいです。

(E)

実際自分の高校にはラクロス部というのがあるんですけど、放課後は、小学校の校庭を使って練習をしているので、今ある部活を残して男子が入ってきて、また部活を増やすとなると校庭は結構いっぱいになっちゃうと思います。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。男子校の方は、もし女子が入ってきたら、ここは困るという事はあるかな。

(G)

今、体育館は、バスケットボール部とバドミントン部とバレーボール部が活動していて、3部活で使っていて、二面しか使えないのでローテーションしてるんですけど、仮に男女の部活ができて6部活となるとローテーションとかが難しいと思う。

(依田 高校改革統括監)

Aさんが言ってた部活動の種類がという話だね。結構どちらの学校も比較的規模の大きい学校だから、部活動の種類が増えることは厳しいということかな。ほかの男子校ではどうだろう。

(C)

バドミントン部の人に聞いたんですけど、今でも体育館が制限されて使えないので、40～50分ぐらい歩いたところの体育館で活動しているという状況です。

(依田 高校改革統括監)

今でも難しい状態なんだね。そういう話は具体的な話として大きい話だなと思いますね。分かりました。設備の話は、これでAさん、お話伺ったということでもいいかな。では、次の話に行きましょう。

男子校と女子校の特長について先ほどお話があったと思うけれども、学校行事であるとか、男性に合った教育ができる、女性に合った教育ができるというようなお話があったと思うんですけども、もう少しそこについて、皆さんのお考えを具体的に聞かせていただいてもいいかな。

男子に合った行事とか、男子だからの教育活動とかというのは、Dさんから見て、自分の高校にはあるかな。

(D)

体育祭は男子でないとできないものがあると思います。

(依田 高校改革統括監)

もう少し具体的に、例えばどんなことかな。

(D)

騎馬戦があるんですけど、女子だとできなくはないですけど、男子と比べてどうなるかというのはよく分かりません。男子の方が盛り上がるような気がします。先入観ですが。

(C)

そういう男子しかできない行事という自分の高校では、体育祭で入場行進をやるんですけど、1、2年生は普通に入場するんですけど3年生は別で、なんか渾身の劇みたいなものを作ってきて、それを公開して、そこから入場するっていう形になっている。その内容も、共学だったら多分絶対見ないようなものとなっている。

あと、新入生歓迎会とか、よく言ったら男子校らしいものをやってるので、そこは共学化したらきついのではないかと思います。

(依田 高校改革統括監)

言いづらいかもしれないけど、共学では難しいというのはどういうことかな。

(C)

例えば、入場行進だったら、学歴ネタとか、時事に対して風刺したりとか、いろいろありますね。

(依田 高校改革統括監)

それが先ほど、話せる話題とか、踏み込みづらいところまで話せるとかとCさんが言った中の一つのエピソードかな。

(C)

一見ちょっとやばそうとか、デメリットっていう意味ですけど、思っちゃうかもしれないんですけど、個人的には青春の3年間はいろいろな踏み込んだところまで行くっていうのも、今後の人付き合いとか、様々な話題とか、そういう風にやることで、皆和気あいあいするだけでなくONとOFFを切り替えるというか、逆にそういうのに通じるんじゃないかなって思っています。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。羽目を外すようなことも高校の3年間では大変貴重な経験だったことだね。

(B)

男子校だからというか女子校もそうなんですけど、共学化してしまうと、それぞれの良いところがなくなるというか、本当に異性がいないので、自分のやりたいことに成長できたりとか、そのところに力を入れられることができる。行事もそうなんですけど、仮に共学化してしまうと、高校生活の魅力がなくなってしまうと思います。

(A)

私から話しておいて、ちょっと説明が足りなかったかなと。男子校に合った行事っていうので、僕が考えてたのが、例えば40キロハイクとかラグビー大会とかで、これを共学化した上で行うのは、難しいのかなと思います。特に、ラグビー大会とかは脳震盪を起こす人が出たりとか、とても激しいスポーツなので、そのようなことができなくなるのかなと思います。40キロハイクは男子でも結構きついので、共学化した上でできるかって言われると、僕はできないんじゃないかなと思います。

(G)

行事について話すと自分の高校は40キロハイクというものと、臨海学校っていうものがあるって、この二つをやり切ると、真の〇〇高校生って言われるんですけど共学化になった時に、その2つができるのかって言ったら、僕はできないと思っています。

例えば、臨海学校を例にしているって、共学化になって男子と女子と一緒に海に行きますってなった時に、女性はやはり危ないじゃないですか。みんなで仮に行くとしても、できないこともありますし。40キロハイクなんか40キロを8時間以内で歩かなくちゃいけないんですけど、それで完歩できるかって言われたら、共学化になったら難しいかなって思います。

(F)

自分も自分の高校の臨海学校っていう行事に着目したいなと思ったんですけど、本当に自分も一年生で行った時に臨海学校は最初にみんなで一緒にバスで行って、向こうに着いて、新潟に行くんですけど、新潟の場所にある民宿に泊まらせてもらうんです。ずっとお世話になってるところなんですけど、そこでも男子ならではというか、夜もみんなで騒いだりで、民宿の方もそういうのは分かってるから、この時はこういう対応しようとか、そういうのができてると思っています。

あと女子は中学の時もプールの授業があって、結構泳がない女子が多かったのもあって、臨海学校だと女子は結構厳しいんじゃないかなって思います。

(E)

行事の面から言うと、言いたいことは想像つくと思うんですけど。男子がいると本性を現さないというか、女子校だからこそ、叫びまくったりとか、すごい全力でやってるイメージがあります。

あとは、教育面でいうと、女子校なので、女子大からの説明会がよく来たりとか、そういうので私大を志望していたりとか、そういう子は結構ありがたいのかなと思います。

あとは、最近女子の理系の子が、大学の女子枠とかがあったりとかする関係で、理系を選ぶ女子は共学よりも女子校の方が多いというのがあるので、そういうところが女子校の教育面の良さだと思います。

(依田 高校改革統括監)

学校行事の話もありましたし、学校生活に関するお話もあったと思います。ここで皆さんにまたお話を聞いていきたいのだけれども、今、男子校で、騎馬戦の話とか、臨海学校の話とか、40キロハイクの話とか、ほかの男子校であれば、入場行進の際の話であるとか、新入生歓迎会の話とかいろいろあったけれども、これは女子はそういうのはやっぱりやめた方がいいと思うかな。今男子校で行われているような行事は女子にとってはどう思うかな。

(E)

男子校だからこそその行事だとは思いますが、勧告書の言葉を借りると、男女の役割についての定型化された概念、共学化してその行事をやるってなったら、共学だとやっぱり意識しちゃうところがあると思うので、そういう行事について楽しそうだと思いますけど、男子校だから楽しいっていうのが一番かなって思います。

(依田 高校改革統括監)

それは女子にとっては好ましくない感じかな。共学であっても女子がやるべきではないと思うかな。こういう行事が男子校の魅力だっていう話がありましたが、それは男子のもので、女子のものではないとか、女子は好まないとか、やりたいとか、どう思うかな。

(E)

私は、好まないと思う。共学で行事があってもその学校は志望しないと思う。

(依田 高校改革統括監)

騎馬戦とか、40キロハイクなどは、女子校や共学校にあったとしたら、よくないかな、又はやりたい、やりたくないどちらかな。その行事は、女子は男子ならではのものと思うのかな。

(E)

騎馬戦だったら、女子と男子は体の作りが違うので、男性だからこそ盛り上がるっていうか、共学で男女一緒にやったとしたら、それはもう体格差が出て面白くないだろうし、女子校にあったら、それはそれで楽しいかなと思います。共学だったら難しいなって思います。40キロハイクもきついと思います。

(依田 高校改革統括監)

今度はAさんに話を聞こうか。先ほどEさんは、女子校は女子大からの説明会とか、理系の女子大希望者が女子校の方が多くはないかという話があったけど、男子校は学びの方で言えば、何か男子校の特徴みたいなものはあるのかな。

(A)

男子校だから〇〇があるみたいな、そういうのは、多分、そんなことあんまりないのかなと思うんですけども、よく聞くので言うと、男子校の、理数教育というのは、結構レベルが高いというふうには聞くので、男子校だからこれがあるっていう感じではないと思う。男子校だから、結果的に、理数系の学習のレベルが高くなるっていうのはあると思います。意識してやることではないのかもしれないけれども、そういう感じです。

(依田 高校改革統括監)

はい、分かりました。

学校行事と今学びの話を聞いたのだけれども、そのほかに雰囲気みたいな話があったよね。例えば、伸び伸びできる環境にあるとか、後輩たちにもこの楽しい学校生活を残したいというような趣旨のお話があったりしたけれども、それはやはり同性だから楽しいということなのだろうか。もし同性だからだとすると、それって異性がいると楽しくないということなのだろうか。そこのところをもう少し皆さんの話を聞きたいんだけど。同性だから楽しいとすれば、それは男の人と女の人とは違うからなのかな。そこのところを皆さんの意見を聞いていきたい。

(F)

高校生は、やっぱりモテたい人がいると思うんですね。異性からカッコよく見られたいとか、そういうのを気にしていると自分の本性が出せないっていうか、心から楽しめないんじゃないかっていうことだと思う。男子校だからこそ、その価値観を分かち合えたりとか、自分の思ってることをどんどん言えて、心が楽しめる場面が中学の時より多かったなと思います。

(G)

僕、中学校は別学でなくて、女性と一緒にいる公立の中学校だったんですけど、異性がいるってなると、例えば自分が発言したことに対して、気になってる子が、いや、それないわーみたいになって嫌われちゃったりみたいな、そういうことをどうしても考えてしまう。別学校に通い始めてからは、自分の意見をすんなり言えるっていうか、そういう環境づくりがされているので、自分の意見を発しやすいっていうメリットがあります。

(D)

中学は普通の公立の共学校だったんですけど、少なからず異性の目を気にする人は多いと思う。実際、全く気にならないということはなかったですし、別学に行くと、やっぱり同性しかいないっていうので、心をさらけ出せたり、男子校の場合は物理的にさらけ出せると思う。そういう雰囲気の場所っていうのもあっていいんじゃないかなと思います。

(C)

自分も中学は公立で共学でした。中学は中学で楽しかったです。ただ高校は高校で楽しいんですよ。中学の楽しいと高校の楽しいはちょっと違う。中学時代は、例えば共学校ならではの恋愛の話とかして盛り上がりたりもたくさんしましたし、高校は高校で同性しかいないから、全力でいろいろなことをさらけ出したり、皆としっかり打ち解けているっていう感じが、共学に比べてあるなという感じがします。中学時代の人たちは、一緒にいて楽しかったんですが、女子がいるからスカしているっていうか。それは多分普通にしょうがないんだろうなっていう感じがあるし、それが嫌いというわけではないんですけど。男子校は良くも悪くもそういうことがないので。

(B)

自分も共学の公立の中学校だったんですけど、さっき話にあったように、うまく本音が出なかったりとか、異性からカッコいい、可愛いと思ってもらいたいみたい感じがあった。

男子校に来てみて、本音で語りある友達っていうのが多くできて、みんな本音に話すんですね。本性とかわかりあえるし。本音で語り合える、切磋琢磨できる仲間が、共学校よりも多く別学校ではできます。

(A)

別に男子は男子でやってるんですよ、裏で隠れて。共学だとそれが隠れてこそこそなんですよ。ちょっと過激な話をしたりというのは、僕の近くではありました。それでもその話が別学になると、表全面でやるようにはなりました。多分そこに関しては、別学校の人と共学校の人で違いはないかと思うのですが、別学校の方が踏み込んだ内容にはなるかと思うんですけども、それが裏じゃなくて、表全面でできるようになるので、100%の力が120%で発揮できるようになるとか、環境がそうさせているのかなとは思いますが。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。できる、できないというよりは、裏か表かって話かな。

Eさん、女子校ではどうかな、今の男子校の話を聞いて。

(E)

単純計算で女性の数が2倍になるので、例えば、学級内での仲の良さだったりとか、共学の時よりもよくなっていると思います。

(依田 高校改革統括監)

なるほど。話を続けるね。

男子校だと女性にモテたい気持ちがあるとか、女性に異論を言われたくないとかという意見が何人からかあったと思うけれど、女子校で女性が本音で話せるとか、本性が出せるとかという話は、そこは同じかな、それとも違うかな。

(E)

同じだと思います。

別の問題になってきちゃうかもしれないんですけど、中学では共学だったのですが、やっぱり男子がいるからこそのいざこざだったりとか、陰口だったりとかがあって、媚びをうっているとか、そういったものが関係なくクラス全体で仲良くできます。

(依田 高校改革統括監)

皆さんの話を聞くと、異性がいることで遠慮があったりとか、あと、同性の中でも、異性がいることによって摩擦があるっていうことなんだね。そこはよく分かります。今皆さんからいろいろお話をいただいて、大変勉強になりました。現実として女子校、男子校にいる皆さんがお話になっていることは、そのとおりだと思います。今までにいただいてきたアンケートの結果とか、様々な意見聴取の中でもお話をいただいてきたことと同様のお話もありますし、もっと深く、直接的にエピソードも含めてお話をいただいたので、よく分かりました。

別学の楽しいところとか、メリットというのは理解をしているつもりなんだけれども、共学の時に男子がいるから、同性の中での摩擦があったというような話であるとか、共学であったからスカしているという話もありましたけれども、中学校時代の共学の話を、続けて伺いたいと思う。

今、皆さんがおっしゃっていたこと、同性だけなら楽しいとか、異性がいると自分がさらけ出せないとかということについて、なぜ異性がいるとそうなのかという時に、環境の話なんだと思うんですね。ただ、学びは先ほどAさんは変わりがないという話をしたんだけど、実はそこに県教育委員会は、視点を持っていて、別学の意義とか意味とか、皆さんがおっしゃったことは分かるけれども、県教育委員会は、男性と女性で違う学びをしようとしていないというところがあります。男性用の学びとか、女性用の学びとかを考えていない。先ほど、40キロハイクの話とか、ラグビー大会とか騎馬戦とか、女子についても女子大からの説明会の話とかいろいろあったけれども、例えば、男子校であっても、きっと40キロハイクが苦手な男子がいると思っています。臨海学校でも泳ぎが苦手な男子はいると思っています。女子校においても、女子校として大切にしている学校行事があるんだと思います。それが苦手な女子もいると思っています。

逆の立場もあると思います。男子校であっても、女子校のような学校行事に参加したいと思っている男子はいると思っています。一方で、女子校であっても、騎馬戦や40キロハイクをやってみたいと思う女子はいる可能性があると思っています。どちらも県教育委員会は男子、女子と考えることなく、例えば40キロハイクに挑戦したい人は女子でも男子でも挑戦をしてほしいと思いますし、自分の体力だとか自分に合ってなければ、先生と十分話し合った上で、違う体力の付け方があると思っています。臨海学校での泳ぎについてもそうだと思っています。どうしても泳ぎが苦手な子は違う体力の付け方もあると思っています。例えばここではなく違うところで、女子校の行事で、ダンスなどの話題が出たことがあるけれども、別に女子だけだと思ってはいなくて、男子だってやりたい人がいると思います。

それは、県教育委員会は女子用とか、男子用の教育ということを考えていなくて、一人一人がやりたいこと、能力と希望に合わせた学びを男子校であれ、女子校であれ、共学であれ、どう提供できるのかを考えていきたい。

ただ、皆さんが別学校の今のその行事をとっても自分に合ってるもの、自分としてこれをやりたくて、これが良いと思うこと自体を否定しているわけでは決してありません。自分がこういう行事で自分自身を鍛えよう、自分がこれによって〇〇高校生として成長できるものはそれで良いと思っていますけれども。ただ、それを全員が共有できることではないとも思っています。学校それぞれ、どの学校であっても、一人一人に合った学びをどう提供できるのかを重視しなければいけないと思っているんです。男の人用と女の人用の教育を考えない時に、別々に分けて学ばせることに積極的な意味を持っていないんです。

別々の学びがあると思っていないので、別々に学ばせることに積極的な意味を持っていないんです。ただ、環境としてね、皆さんがおっしゃったのは雰囲気だとか、生き生きとできるとか、異性がいなくて本音がさらけ出せるということのを否定してるわけでは決していない。それはそれで別学の魅力だと思っているんです。ただ、学校の学びとして考えた時に別々の学びをやろうと思っていないので、別々に分けて学ばせるということを、私たちは積極的に考えていないということが県教育委員会の考え方なんです。

ここからまた話を変えたいんだけど、中学校時代を思い出していただいて、共学のどこが良いのか、悪いのか。皆さんの意見を聞きたい。

共学の具体的な学校の行事であるとか、そういったところで男子と女子と共学で、ここは共学の悪いところだよというところがあれば、教えてほしいと思う。こういうところ改めた方がいいと思う、だから別学の方がいいという意見でもいいですよ。共学の問題点あれば教えてほしい。学校の行事であるとか、学校の教育活動であるとか、そういったことの中で、

男子と女子との区別みたいなものが共学校にあるんだったら教えてほしい。共学校で、男子と女子の関係で首をひねるようなことがあったことがある人はいるかな。

(A)

男子と女子と一緒に生活するのが共学になるので、中学の時とかだと、係活動を決めていたのですが、そういう時に教室を装飾したり、黒板のチョークを補充する係とか、この発言をしたら、多分今のご時世的にアウトになるのかもしれないんですけど、女性らしいことは女性がするみたいなそういう雰囲気はあったと思います。

ここから別学の話に展開をさせていただきたいのですが、前は世間的には女性がよくするものとされていたことも男子校では男子がやらなきゃいけないし、逆もしかりです。

前は例えば虫の退治は男がするものだとなっていて、女子校だったら、多分そういうことは女性がやらなきゃいけない。そういうのはあるのではないかなと思います。

(依田 高校改革統括監)

なるほど、分かりやすい意見ですね。そのほか、具体的なエピソードみたいなものもあれば教えてもらえると嬉しいです。

(C)

自分は今吹奏楽部なんですけども、元々音楽が好きで入ったんですけど、音楽は生まれた時から好きだったので、本当は中学の時に吹奏楽部に入りたかったのですが、圧倒的に女子が多いから、めちゃくちゃ入りづらい雰囲気があって、自分は別の運動部に入りました。それもさっきの話の通り、暗黙の了解というか、女子の方が吹奏楽の人数は多いから、吹奏楽は女子がやるものというか、そういうイメージができちゃっています。自分は高校こそ音楽の活動をしたいと思ってたので、それで私は男子校に進学しました。

(依田 高校改革統括監)

それはとても残念だったね。分かりました。

(G)

さっき依田さんが言った言葉なんですけど、40キロハイクをやりたくない人もいるみたいなことをおっしゃってたじゃないですか。例えばなんですけど、卒業式準備をします。そこで男子は椅子並べとかをして、女子は飾りを付けをします。女性でも椅子とかを運んでやりたい人だっているし、男性でも飾りとかつけてやりたい人がいると思うんですけど、どうしても共学校だとそういうことが男性だから、女性だからって分けられちゃうところを、別学校だったら男性だから全部やんなくちゃいけなくなる。そういった部分は、共学のデメリットかなと思います。

(E)

皆さんが言ってくれたことに本当に共感なんですけど、私の中学時代はサッカー一部と野球部があって、男女で別れてはいなくて、どちらも入っていいよって感じだったんですけど、サッカー一部と野球部に入っている女子は本当に少なく一人だった。私の友達にも実際それでサッカー一部に入るのをやめたという女子がいました。

別学だとやっぱり力仕事も女子がやらないといけないけど、でもそれがあってこそその楽しみっていうのもあるので、それは逆に別学の良さです。

(B)

今、埼玉県で、管理職の男性割合の話が出ています。県教育委員会の教育長は男性ですし、そういうときに別学校は、高校で例えば生徒会で考えると、女子校であると生徒会は女子で構成されます。今、埼玉県の管理職の男性割合の高さっていうのを打破するのは、自分は女子校だと思っています。女性にもそういう機会が与えられるのが女子校っていうか、女性しかないないので、基本的に女性の割合が100%になるため、そういうところも利点だと思います。

(F)

中学の時、女子の友達で体育館で同じ部活の中に男子が多いから最初入ったけど、ちょっと行きづらくなってやめてしまうみたいなこともあったんです。自分は野球部に入っていたのですが、女子は確かに少なかったんですけど、ほかに比べたら三人ぐらいいたんですけど、人によるというか、一人女子が途中一回抜けてしまうみたいなことがあって、そういうところがあるとやりづらい人も出てくるのかなって思いますね。

(D)

女子校の利点の一つとしては、女子が生徒会長とかそういう役職に就くのは良くも悪くもやらざるを得ないんで、男女共同参画という観点から見ると、女性のリーダーの経験っていうのは結構大事で、その後にも繋がってくるのかなと思います。

女子校でリーダーを経験した女性と、共学でリーダーを経験した女性では、どっちが将来役職に就いている人が多いのかっていうことは調べきれなかったんですけど、その結果次第だと共学もありかなと思いました。

(依田 高校改革統括監)

様々な観点からの話があって、いろいろ考えさせられました。その装飾の係であるとか、黒板のチョークの話とかね、そういうことは女性でということが共学ではあるということや、Cさんのその部活動の吹奏楽の話っていうのは本当に残念だったと私も思いますし、Gさんの、椅子並べの話であるとか、飾り付けの話なんかも、共学校でありがちな話だと思いました。

共学校というのは男子と女子が一緒にいるので、社会の縮図なんです。社会にある男性と女性の役割分担意識というようなものが、学校の中にも入り込んでくる。学校も社会の中にあるものだから。それが男子と女子がいるから顕在化してくるんだよね。だから皆さんがおっしゃったように、女子ばっかりの部活に男子が入りづらいとか、椅子は男子が並べて飾り付けは女性とか、こういうようなことが往々にして共学校では出てくる。

今はまだ多分、男性と女性の役割分担意識というのが皆さんがおっしゃったように、学校でも残っているように社会にあるんだろうと思います。けれども、先ほど言った県教育委員会が男子用と女子用の教育は考えてないという話のその一つの大きな理由は、今私たちが目指そうとしている男女共同参画社会を、これは皆さんどこかで聞いたことがあると思います。が、男性と女性が協力をして、社会でも家庭でも活躍をしていこうという社会を皆で作っていこうと考えていて、学校の教育もそういう社会の中で皆さんが活躍していけるような教育

を進める必要があると思っているからです。ですから、今の共学校の話に出てきたような、いわゆる典型例というか、男女の役割分担意識みたいなものは、私はこれからの学校教育ではよくないものだと思っています。

先ほど教育で男性と女性を分けていないという説明をしましたが、要は男性らしいとか、女性らしい役割ということではなくて、一人一人の希望と能力にあった学びをどう提供できるのかが重要だと思っているんです。なので、共学校の今の課題は、やはり大きな課題だと思います。埼玉県は県立高校は137校あるんですけども、そのうち別学は12校です。90%以上の学校は共学なんだよね。その共学の学校がそういう課題を持っていることは、高校教育全体として課題だと思っています。

そこをしっかりと気をつけなければ、共学化を推進するという県教育委員会の考えに疑問符がついてしまうことになるとと思っています。皆さんのご意見はしっかり受け止めて改善を図る必要があると思っています。

【休憩】

(依田 高校改革統括監)

先ほど生徒会の話がでましたが、生徒会については、昨年度、県教育委員会で共学校の何校か抽出で調査をしてるんです。参考のためにということで、事務局の方で情報提供があるということなので、説明をしてもらいましょう。

(事務局)

令和5年度の男女共学校における生徒会等の主要役員の男女別数について調査しました。別学校12校の近隣に所在している、在校生の居住地や進路状況が重なっている共学校11校のデータです。在籍する男女比は各校で異なりますが、合計すると半分半分ぐらいの数でした。

生徒会の会長の副会長については、会長は男子10人、女子8人。副会長は男子15人、女子16人でした。次に委員会ですが、委員長は男子が71人、女子50人、副委員長は男子97人、女子98人。部活動ですが、部長は男子147人、女子151人、副部長は男子143人、女子200人となっています。

(依田 高校改革統括監)

ありがとうございます。先ほど男子校、女子校は男子なり女子なりが絶対やらなければいけないって話があったけど、共学はこういう状況だということです。多い、少ない、意外だっという人もいれば、こんなものかなと思う人もいるでしょう。現状はこういうことです。

では、話を進めたいと思います。別学の話をしていただきます。共学は社会の中であって、男子と女子がいるのでどうしても男子と女子の間の様々な摩擦が顕在化してくる、明らかになってくるっていうことがあって、そこについては十分注意をする必要があるということです。

一方で、では別学はそういったものがないから、良いのかということになると、やはり課題があるのではないかなと思っています。今まで皆さんと話した中で、環境の話は別だと思います。異性がいるから気になるということも、それは自然なので、そのこと自体は何らここで課題だという話ではないです。そうではなくて、例えば、先ほどあったこの行事は女子には難しいとか、これは女子向けだとかという意識が別学の中には隠れている、潜んでいる

可能性があるのではないかなと考えているんです。もう少し具体的に言うと、男子校は男だから、男としてのその学校行事をやる、女子は女子だから、女子としての学校行事をやる、女子だから女子の学校教育、男子だから男子の学校教育という考え方が、もし、別学校の生徒の中に潜んでくるとすれば、それは大人になった時に、男子らしい役割に則った仕事、女子らしい役割に則った仕事というふうに、意識をしない中で、課題や問題が顕在化しない中で、自然と男らしさとか、女らしさとかというものが役割分担にまで意識の中に入っていく。その意識が社会に出た時に、男なんだから家庭のことは考えずに土日もあるのが当たり前だろうとか、女性なんだから残業をやめて早く家に帰って子供の面倒見なければいけないとか、それは一人一人の希望とか、個性とかとは関係なく、性別によって役割が決められて、生き方が性別によって決めるような意識が、隠れて染み込んでいくことがあるとすると、気をつけなければいけないと考えているんです。

こういうことが県教育委員会の中で考えられたことなのだけれども、皆さんの中には反論もあるだろうし、考えるところもあると思います。皆さんの意見を聞きたいのだけど意見がある人いますか。

(B)

男子校だと女性がやるべきとされていることを全部やっていて、女子校だと男がやるべきとされていることも女子が全部やっていて、結局全部やることになるじゃないですか。社会に出た時に、無意識のうちに自分が男だからこれをやるって言うんじゃないで、自分は別学で育ってきたから、女性がこれをやる、男性がこれやるということに関係なく全部やるっていう人が育つと思う。

(A)

ちょっとこの場所での発言が偏りすぎてしまったのかなっていうそこは反省ではあるんですけども、もし無意識にあの男子と女子の差が、男子校に入り込んでるとするならば、その高校は既に僕は終わってると思うんですよ。なぜかっていうと、もちろん、世間的にはですよ、一昔前までは男性がやるべきもの、女性がやるべきもので分かれていたのならば、男子校に無意識にでも、これが男がすべき、これが女がすべきみたいなことが入り込んでるならば、それをやらないと思うんですよ。意識に入り込んでいたら。力仕事をする人しか集まらないと思うので。教室の装飾をやってみるとか、一昔前は言われてたことをやる人がいなくなったら、その学校は崩壊すると思います。ということは、そのようなことはそんなにないと思っていて、全てやらなければいけないので。

正直、県教育委員会の皆さんが言ってることはよく分かるんですけど、僕としては、机上の空論ではないのかと思います。

(E)

別学でその男女の概念が密かにあるっていう話をされたと思うんですけど、逆にそういうのが顕著に現れているのは共学なんじゃないかなと思います。さっき社会の縮図が共学校であるっていうふうにおっしゃられたんで、私たちは共学校には男女の固定概念があったよねっていう話もこの議論の中で出てきたので、そういうのが今現れてるとしたら共学なんじゃないかなと思います。

(F)

少し違う立場です。潜在的になんか染み付いてるみたいな、そういうことを考えた時に、少なからず、男子校、女子校の中にあるんじゃないかなと思いました。同性が集まっている中だと異性のことを偏見までではないけど偏った考え思ってしまったたり、そういうことが実体験として少しあったんですね。そういうことを改善していくことを大事なのかなと思いました。

(依田 高校改革統括監)

皆さんの言っていることはそのとおりだと思います。共学は先ほど話したように問題が顕在化するっていう、それはもしかしたら、共学の良いところかもしれない。別学の方も全てやるから、そういう意識は別学にはないんだっていうことも、それもそういう考え方もあっていいと思います。Fさんのようにやはり少なからず思うってこともあると思います。

私がここで申し上げてるのは、そういうことを考えることが、共学にも必要だし、別学にも必要だと私は考えているということなんです。やはりどこかにそういうことがあるとすれば、それはしっかりと認識をして直していこうとする姿勢が双方に必要なんだと思っています。学びはどちらかが100%良くて、どちらかが100%悪いということは多分ないんだと思います。人によってもあった環境というのがあるでしょうし、希望もあるでしょうし、ですからそういった意味ではどちらかが良いとか悪いとかと簡単に片付けられることではなくて、そこに潜んでいたり、顕在化しているものに気づいていくことが、これからの男女共同参画社会に進んでいこうとする皆さんに必要なんだろうと思います。皆さんがおっしゃっていることはどちらも正しいんだと私は思っています。県教育委員会は、男も女の人も全てやらなくてはいけないということは別学の特長としてよくわかっているつもりです。一方で、潜んでいるという意見もあると思っています。だから良いところ、悪いところをしっかりと認識をして、気づいていくことが重要なんだろうというふうに思います。こちらからの話は以上にして、質問に切り替えましょうか。

(E)

こういうような話し合いをしてきて、今までも署名提出とか、いろいろ別学を残したいっていう方々が活動を結構してきたと思うんですけど、それを県教育委員会は受けて、共学化を取りやめるってことはあるんですか。

(依田 高校改革統括監)

今日の会も含めて、私たちはお互いにその認識、考えを深め合いたいと思っています。ですから一緒だと思っています。Eさんも考えを変えることがありますか。

(E)

あると思います。

(依田 高校改革統括監)

その考えと同じです。県教育委員会も、一人の高校生も同じです。

お互い認識、考え方を深める中で、考え方が変わることもあれば変わらないこともあるかと思っています。そこはお互いがいろいろ話をする中でどのように考えていくのかということだと思います。

皆さんと話し合った結果は、県教育委員会に全部にお話ししたいと思います。教育委員の方々全体にお伝えをして、今後の県教育委員会の仕事を進める上の参考にしてもらうようにします。なるべく私の主観を交えないで、客観的に皆さんとの意見交換の内容をお伝えするようにします。

(G)

6月13日に県教育委員会から令和8年度公立入試募集人数が発表されましたが、募集人員を減とする高校が12校あるんですけど、その中に熊谷高校と熊谷女子高校っていう名前があって、ほかの高校を見てみると、例に出して悪いんですけど、上尾橘高校とかは、倍率が1.00倍を割っている高校なんですよ。熊谷高校は僕が知っている限り、ここ3年間ぐらいは1.00倍を超えている訳ですよ。定員が320人に対して、熊谷高校に行きたいって思う人が20人ぐらい多いわけです。それなのになぜ募集人数をわざわざ40人も減らすのかっていうことを聞きたいと思い質問しました。

(依田 高校改革統括監)

今のGさんの質問は大きな話なんですね。今後の生徒数の推移を県教育委員会がどう見ているのか。

事務局に話をしてもらいましょう。今、熊谷高校の話だったけどだったけれども、とりあえず県全体の今後の生徒の動きと、北部地域の中学校3年生の状況について事務局から説明してもらっていいですか。

(事務局)

中学校卒業者数の見込みの数について説明します。公立の中学校の卒業者数を県教育委員会の方で推計しています。令和6年の3月から令和20年の3月までで比較しています。令和6年3月の公立中学校等卒業見込者数は、約58,900人、ここから14年後は、約44,100人となり、約14,800人の減少が見込まれているという状況です。

地域別の状況ですが、その一つである北部・秩父地域では、令和6年3月には4,915人から、令和20年3月では、2,989人となり、1,926人の減少となっています。割合で言うと、約39%の減少となります。

(依田 高校改革統括監)

中学生の減少の話をしたんですけども、今後の生徒の減少、令和20年3月までで約4割、この北部・秩父地域で減ってしまう現状です。

一方で、その1倍切ってる学校もある中でという話なので、もう少し話をしますと、1倍を切ってるその学校のクラス数は、5クラスとか4クラスとか大体そのくらいです。熊谷高校は今8クラス。熊谷女子も8クラスです。その8クラスを今回7クラスにするわけですけども、これから子供の数が減っていく中で、学校をどうしようかというときに、学校の規模を小さくするという考え方と、あともう一つは学校自体を減らすという考え方がある。今Gさんが言ったのはどっちかという、1倍切ってる学校を無くすという方向があるという考え方だったと思う。ここで、その二つのやり方があるけれども、県教育委員会は、どちらも必要だと思っているということがまず考え方です。ただ、どちらも必要なんだけれども、今1倍を切っている、例にあげた学校は4クラスだと思うんですけど、高校はいろいろな教科がある。数学もあれば物理もあって、英語もあって国語があって、それぞれ専門の先生が

教えていると思うけれども、先生の人数は、学校のクラス数に連動して法律で決まっている。小さな学校になってくると、学校の先生の人数が少なくなってきました。小学校みたいに担任の先生にたくさんの教科を教えてもらえれば、問題ないけれども、高校で、専門性の高い先生に専門性の高い学びを皆さんに提供しようとする、一定程度の学校の規模を維持して、先生の数を維持していかなければいけなくなる。そうすると、今Gさんが言ったように、学校の数を減らす必要が出てくる。一方で、一定の地域に農業も、工業も、商業も必要だと思っている。そのほかにも、学びの選択肢として能力に合った学びをできるかぎり提供していきたいと思っている。そうした時に能力に合った学びと本人の希望に応じた、様々な内容の学びとを、その地域に維持しようとしたときに、1倍を切っている学校を残すか残さないかというのは微妙です。

1倍を切った学校でも生徒の能力に合っている学びがあるならば提供をする必要があります。さらに様々な種類の学校も一定の地域に維持しなければいけないといった時に、結局、学校の数を減らす必要があるけれども、もう少し減らしてもその高校での学びが損なわれない場合、クラス数を減らしていく学校の必要も出てくる。そうしないと、学校の学びの選択肢を失わせることになってくる。生徒が減っている中で同じクラスをずっと維持するということは、学びの選択肢を逆に失わせることになると考えているんです。当然、倍率も考えるわけけれども、単純に1倍を超えている、超えていないだけでクラス数を維持するということを検討しているわけではないということです。

県教育委員会が、別学の共学化を推進しますと言っているのですが、何十年も前からそのように言っています。去年言い始めたこととこれまでとで、何が違うのかというと、主体的に県教育委員会が総合的に検討する中で推進しますと言っている、主体的という言葉が入ったのがこれまでと異なる部分です。今までは各学校で教育改革を推進する中で、各学校で考えてください、各学校が共学化を推進する際には、県教育委員会はそれを支援しますと言ってきた。それを切り替えて県教育委員会が主体的に推進するとしたのは、これからの生徒減少と、様々な学びの選択肢をもっと増やさなければいけないと思ったからです。北部地域だけではなくて、様々な地域で、例えば、海外の大学の受験資格が得られるような教育プログラムを導入する学校も必要なのではないかとか、普通科の学校でも今までの普通科の学校だけではなくて、地域に出てフィールドワークを中心に学ぶようなことができる普通科、これ普通科改革という言葉を使ったりするけれど、そういう普通科も必要だとか、総合学科ももっと必要ではないかとか、中学校と高校が6年間一貫で通して学べる学校のニーズも出てくるのではないかなど、今までにない学校の形態も必要だと考えています。学校の数を減らす中で、学校の種類をさらに増やして行こうとすると、似たような学びがある学校については、一緒に統合する必要のある学校も出てくるだろうと思っているんです。共学も別学も一緒に変わりがなくて、それは各学校が考えられることではなくて、県教育委員会が一定の地域なり、全県を見ながら、この地域に一定の学びの種類と希望と能力に合った学校を配置していくとすると、共学も別学も、再編整備という言葉を使うんだけれども、その対象にしていく必要があると思っているんです。

そういうことで、各学校ではなくて、県教育委員会が主体性を持たせてもらうことにしたところです。Gさんの質問は話が広がってしまったんだけれども、結論的に言うと、1倍超えてても1倍を超えてなくても、多様な学びの選択肢を生徒に残すために必要なら学校の数も減らすし、クラスも減らす必要があるとの考え方ですね。

(G)

例えば、1.00倍を超えて、募集人数を減らすとするじゃないですか。そうすると熊谷高校でいうと、熊谷高校に行きたくても行けなかった人がさらに増える状態じゃないですか。それって県教育委員会が言ってた自分のレベルに合った高校にはいけないことになるじゃないですか。

(依田 高校改革統括監)

生徒数の減少によってそうならないと考えています。

(G)

滑り止めっていうのは基本的には自分行きたい高校より、大体下を選ぶじゃないですか。それは果たして自分のレベルにあった高校なのかって言われたら微妙ではないですか。

自分が行きたかった高校より、滑り止めっていうのは大体基本的には下のレベルで、募集人員減によって、滑り止めの学校に流れていく人が多くなるわけじゃないですか。

例年通りの定員に人数が来たとするとです。

(依田 高校改革統括監)

先ほど20人ぐらいオーバーしているという話があったけれども、県教育委員会は1クラス減らすことで、今まで以上に、滑り止めに移る生徒が増えるとは思っていません。

このままのクラス数がもう維持できなくなるという推計をしています。そのぐらい子供の数が、14年で40%というインパクトはやはりあるということです。4割の学校が減るとは思わないでいいんだけど、先ほど言ったようにクラス数も減らすし、学校も減らしながら学びの選択肢を残そうと思っています。生徒数の減少のインパクトというのはかなり大きいものがあります。細かい話が聞きたかったらいつでも聞いてください。

(A)

単刀直入にお聞きをしたいと思います。共学化することでメリットがあると考えていますか。

(依田 高校改革統括監)

共学化することは望ましいと考えてます。それは男子と女子との学びについて違う学びをさせようとしてないから。男の人も女の人も同じ学びをしようとする以上、一緒の場所で一緒に学んだ方が同じ学びがしやすいと思ってます。

(A)

多様な高校づくりに注力をされてるかなと思うのですが、極端な話をしてしまうと男子校、女子校という選択肢を無くすと、多様性がある意味失われてしまうのではないかなと、そういうところを危惧してるんですけれども、その辺はどうでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

教育の環境として同性のみで、生き生き、のびのびと生活ができるという、そういう環境が別学がなくなることによって失われる恐れはあると思っています。ただ、それ以上に考えているのは、先ほど言った希望と能力に応じた学びの提供の方を優先的に考えているということです。皆さんが生き生き、のびのびできるという、その別学の環境は理解してます。それは不

必要だと思ってはいません。別学の特長の一つとして私は理解はしています。それ以上に私たちが考えているのは、男女の教育機会が均等に学びの選択肢があることだということです。

(A)

極端な話で共学化を全校で実施したとすると、大体志望できる学校の数で5%ほど増えるんです。これをお小遣いにちょっと当てはめて考えてみると、大体僕月々五千元ぐらいもらってるんです。親から5%増やすよって言われても250円なんです。それが嬉しいかって言われるとどうかなとは思ってしまうんですよ。仮に全てを共学化した場合です。必要な分だけ共学を行うとしたら、選択できる高校の数の増えるパーセンテージ自体は減ってしまうので、正直、男女が均等に教育を受けるためという名目で共学化を行ったところで、お小遣いに当てはめると、250円しか増えない。

そう考えると、それにかかるコストとかもありますが、ちょっと費用対効果がよろしくないのではないかなと思うのですがどうでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

そこは具体的に考えていく中で必要なことだと思いますね。先ほど設備の話をね、Aさんがされたと思いますけれども、そこはどのぐらいのコストがかかるのか、学校によっても大分違うし、結局先ほど言ったように、共学と別学が一緒になることもあれば、別学同士が一緒になることもあるでしょうし、一緒にならないこともあるでしょうし、そういう中で費用対効果というのは行政ですから、当然しっかり考えていかなければいけないと思っています。

それは個別の話としてです。考えはAさんがおっしゃるとおりで、十分必要なことだと思います。

(B)

令和6年10月18日に公布された、埼玉県こども・若者基本条例について、県教育委員会はどのような位置づけをしているのか、どのような意義を持っているのか、考えを教えてください。

(依田 高校改革統括監)

条例は守らなければいけない義務があります。位置づけとか意義というのは県教育委員会が考えられることではなくて、条例は尊重義務があると思っています。

(B)

令和6年12月に県教育委員会と浦和高校関係者で意見交換会を行っています。そこで県教育委員会から別学には別学の意義や大切なところがあるという発言があった。令和7年7月に県教育委員会と東部地区の中高生との意見交換会において、男女を分けて教育することに積極的な意味を持ち合わせないという報道がされていて、完全に別学NGと受け取れてもおかしくない内容だと思うんです。

(依田 高校改革統括監)

今日、皆さんと話している時と私は同じ話をしたと思う。Bさんはそう思わなかったかな。

(B)

そう思ったんですけど。整合性があんまり取れてないと思いました。

(依田 高校改革統括監)

違う話をしているのではないかな。別学には意義があって、良いところも分かっているという話を今日はしていますよね、一方で男子と女子を分けて教育することに積極的な意味を持っていないっていうことも、今日話したと思います。そこは対立していないような気がするんだけど。

(B)

自分は違うと思っています。なら、別学校を主体的に共学化推進するっていうのには、反対です。

(依田 高校改革統括監)

Bさんの意見はよくわかります。Bさんとしては、別学の意義ってものをもっと尊重してほしいという考え方なんだよね。

(B)

熊谷には、別学の熊谷高校と共学の熊谷西高校があって、偏差値でいうと、同じぐらいなんです。昨年度の入試倍率でいうと、熊谷西高校の方が倍率が低いんです。熊谷にあって、同じ偏差値帯で、共学の熊谷西高校の方が倍率が低いっていうことは、男子校である熊谷高校の方が望まれている、多くの受験生に望まれているっていう数値的な表れなのではないかって思うんです。

仮に、ここで熊高と熊谷女子が合併して共学化になったりとか、熊高、熊谷女子を共学化したりしたりしたときに、今の状況から考えると、倍率が上がったりとか、志望者数が上がったりするというのが期待値として望めないじゃないかなっていうふうに思いました。

(依田 高校改革統括監)

今Bさんがおっしゃっていることは、単年度的に見れば、そういう考え方もあるかもしれないけれど、熊谷西高校の倍率が高くなる年もあったり、熊谷高校の倍率が低くなった時もあるし、熊谷女子の倍率が低くなったりする時もある。この熊谷の3校は、学校が一生懸命、PRをして努力をしています。どの地域のどの中学生がどこの高校を選ぶのかは、その年その年でだいぶ違って、そこについては、長いスパンで見ていく必要があると考えています。だから単年度的に見れば、Bさんがおっしゃってることは間違ってることではないと思っています。ただ、県教育委員会は先ほどGさんの質問の時に言ったように、倍率だけで見ているわけではなくて、その地域が男女の機会が均等に学びがどういうバランスで配置されているのかを見ていくので、さらに新しい学びの学校もこれから導入しようとした時に、どの地域に学校を配置していくかというのは、倍率だけで考えることではない。だから倍率が高い学校が、再編整備の対象になるということはこれまでもたくさんあります。1. 3倍とかの学校が再編整備の対象になったこともあります。そこは様々です。倍率だけではなく、逆に良い場所にある学校というのは、生徒が通いやすい学校として注目されやすいし、公共交通機関が比較的不便なところにある学校というのは、もしその学校が人気があったとしても、将来的にもう少し遠方から来れるようにした方がいいのではないかと考えることもあり、ほ

かの場所に移転するということもある。高校には、近くに新興住宅地ができて自転車通学でたくさん生徒が集まっていた学校があるけれども、そういう学校も、この先の中学生数や小学生数を見ていくと数年後の状況が見えてきて今後の再編整備の必要も出てくる。交通機関の問題もあるし、学びの選択肢もあるし、新しい学びを導入する際に、バランスを考えないといけない。Bさんが言ってることも、一つの意味としてはよく分かるんだけど、それだけでもないと考えています。

(B)

自分は生徒会長をやっているんですけど、公約の一つに男子校としての〇〇高校を守る別学維持活動をあげて当選したんですよ、生徒会長として。これって、自分の高校の生徒が別学維持を望んでいるということの現れだと思うんです。ほかにも自分の高校は生徒会で、共学化に関するアンケートを独自でとって、共学化に反対という生徒は86.5%でした。この数字も、依田さんもそうなんですけど、日吉先生にも大野知事にも郵送で送ったんですけど。あと、共学化反対ウォーキングというそういう民意、実際に社会で働いている人たちの意見っていうのは承知しているのか、把握しているのかというところは、音沙汰がなくて心配しています。

(依田 高校改革統括監)

把握してます。皆さんからいただいたアンケート調査だよな。

3月くらいに実施していたよね。女子校も実施していたよね。今このパソコンに入っています。見ています。分かっているけれども、ただそれだけがニーズだとは捉えていない。皆さんの意見も一つのニーズとしては、決して軽いものだとは思っていません。十分受け止めたいと思っています。ただ、それだけがニーズではなくて、例えば、中学生からのアンケートもあるし、あとは社会のニーズもあると思います。県教育委員会の方では、これからの学びのニーズというものも考えていかなければいけないと思っています。ですから、一つのニーズとしては、しっかりと理解し受け止めていますけれども、ほかのことも合わせて私どもは考えさせていただくということです。それは承知しており、受け止めております。

(B)

分かりました。

失礼に当たったら申し訳ありません。依田さんもそうですし、出井さんもそうなんですけど、厳しい立場にいらっしゃるかなと思っています。どうことが厳しいかっていうと、日吉先生の意見も聞きながら、中高生、保護者の話も聞きながら、本当になんだろう、言いたいことも言えない状況かと。

(依田 高校改革統括監)

日吉教育長と私は同じ意見です。そこは齟齬はないと思って大丈夫です。

(B)

分かりました。日吉先生と話しても、依田さんと話しても、受け答えに齟齬はないという事ですな。

(依田 高校改革統括監)

違う人間なんで、言い方は違うかもしれないですけど、考え方、話す内容は変わりません。

(B)

分かりました。

(C)

一番最初に意見発表をする時に言った、共学化してまでのメリットですね、税金を使ってまで共学化するメリットはないということについて、それを具体的に深堀していきますと、前半の時間でジェンダーについて話したと思うんですけど、男子校にはそういう偏見がなく、全ての活動ができたり、それは共学は共学で異性とたくさん交流してるわけですから、単純に見て、男女共同参画とはつながるとは思っているんです。つまり別学であれ共学であれ、そこは一長一短です。

次にニーズについてですが、春日部とか浦和とか川越とかは、県内有数の倍率がまだ残ってると思うんです。例えば大阪とかって、今もう公立はすごい人気がない状況。進学校だった高校がもう倍率1倍を切ったりとか。そういう現象が全国的に見たら公立離れが進んでるんですよ。これからそういう公立高校っていうのは少子化とも戦うだけじゃなくて、私立との戦いっていうのが重要になると思うんですよ。公立は残念ながら設備は完全に私立に劣っているんです。甲子園とか昔は、例えば大宮工業や熊谷とかが行ってたにもかかわらず、今は、叡明とか浦和学院と比べると完全に施設面で負けている。公立は倍率も0.4とか0.5とかで。それでも税金払ってる県民側からしたら、私立に負けない高校づくりをしてほしいわけです。

埼玉県がほかの県と違うのは、公立の人气が中学校ですごいあるんですよ。それはなんでかって思うと、そういうふうに元々の別学とかの幅広い選択肢っていうのが残ってるから、まだ戦えてるんだと思ってるんですよ。例えば、宮城県は昔、共学化しましたが、あれって仙台一高に仙台二高、仙台三高みたいな感じで、上位校が全部別学なんですよ。あれは正直ニーズには応えられていないだろう、全体のニーズとして共学校っていう選択肢もないから、それは確かに、共学化してもしょうがないんじゃないかと思ってるんですよ。

埼玉県は違って、浦和高校だったから、同じレベル帯に大宮高校や市立浦和とかあります。春日部だったら、越谷北とかは偏差値も似ています。こういう風にいろいろな選択肢が選べる。公立の共学だからできること、男子校だからできる伝統行事とか、別学ができる伝統行事とか残ってるから、教育とかスポーツとかの面で私立に劣ってるにも関わらず、埼玉県の公立っていうのは人気があると思ってますよ。ただ、それにもかかわらず、共学するっていうのはそれはめちゃくちゃ設備投資もかかることですし、それで税金も払うことにもなる。プラスで今後先、位置付けが中和されてしまう。今までの別学の魅力が逆に中和されることによって、埼玉県の公立の進学校自体の人气が下がって、より私立に流入しちゃうんじゃないかって個人的には思ってるんですよ。

別学の生徒だからとかでもなくて、県民としてでも、いろいろな人は税金払っているから、そういう面でもやっぱ戦ってもらわないといけないと思っているので、だからそういう意味でも無理に共学化すべきではないっていうふうに個人的には思っているんですけど、どうでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

そのコストの件については先ほどAさんに話したように、大切なことだとは思いますが。個別にコストについては、しっかりと検証する必要があると思います。

選択肢については、ニーズについてもいろいろ考え方があって、別学と共学の選択肢にニーズがあるという考え方もあると思うんです。それは、先ほどから私が言っていることの繰り返しになるのだけれども、県教育委員会は、同性のみの環境と異性もいる環境といった環境ということよりも、男女の教育機会が均等で、さらに学びの選択肢をどう用意するのかを考えた時に、その選択肢という意味で、男女の別学という選択肢よりも学びの種類だとか、能力と希望に応じた選択肢、希望というのは同性のみという教育環境ではなくて、学びの中の希望に応じた選択肢を優先的に考えているということなんです。

私学の話が出たんで、Cさんのおっしゃることについては、これはよく承知しました。私学に対しての魅力がないことについては大変申し訳ないと思うし、これはしっかりと私学に魅力が劣らない学校にしていかなければいけない。Cさんのおっしゃっていることについては、謙虚に受け止めさせていただきます。県教育委員会としては男の人と女の人の学びが同じ学びをしようとしている中では、選択肢という中に別学、共学というものを今は考えていないということです。先ほどのGさんの話にもあったように、倍率とかそういうものが全く関係ないと思っているわけではないです。それはそれで一つ大切なことだと思っています。今Cさんがおっしゃったような別学の学校に、そういう倍率があることもしっかりと理解をしなければいけないし、それが関係ないって話では決してなくて、そこに求める生徒さんがいることは、しっかりと考えなければいけない。ただそれだけではないというのは、先ほどBさんにお話ししたように、それも一つで大切なことだけれども、ほかにも考えていく必要があるっていう考え方を持っています。私学については謙虚に受け止めます。

(C)

言いたかったことは、別に私学が設備がよくて公立が悪いって言いたいんじゃないで、言い方が悪かったと思うんですけど、それにも関わらず公立っていうのは人気があるんですね。だから、そういうところを謙虚に受け止めてほしい。県教育委員会の方針としましては、男子校、女子校みたいなハード面とかじゃなくて、もっと中身の教育ということをおっしゃっているんですね。

(依田 高校改革統括監)

男子校と女子校の特長というのは異性がない中での、その一人一人の、学校生活に大きな理由があると思っています。学校が行う教育活動にあるとは思ってないんですね。男子校と女子校のメリットにしろデメリットにしても。それは異性がないという環境の中で育まれているものだと思っています。ただ、そこには、皆さんがおっしゃられたように良い面と、先ほど私と少しお話をさせていただいた、気をつけなければいけない面はあるんだと思っています。それは共学にないという話ではなくて、共学でもあるというふうに思っています。それはしっかりと気をつけなければいけないこととして認識をしていく必要があるということですけれども、県教育委員会は男女で違う教育をしようとしていない中では共学化を推進する立場を今持っています。それでさらに子供が減る中で、希望と能力に応じた学校の選択肢を、男女ともに平等に公平に提供しようとした時に、県教育委員会は、今まで通り学校に主体的に教育改革を任せているだけはいけなくなっていて、私たちが主体性を持って考えていきますっていう意味からすると、魅力ある県立学校を作るということは、大きく言えば、Cさんのおっしゃっていることは、私のお話しした中に含まれていると思っています。私

学に対して、魅力ある学校にしていくというのは、学びの選択肢という中ではあるんだと思っています。例えば、中高一貫校であれ、国際教育プログラムであれ、普通科改革であれ、そういったものは、県立学校に必要なことだと思っています。対私学という意味においても、私たちは私学に対抗しようという考え方を持っているわけではないです。生徒にとって私学も公立も含めて、しっかりと選択肢を用意してそれぞれ自分が行きたい自分の能力に合った学校の選択肢があることが重要だと思っていますから。私学に負けないとか、負けたくないとか、そういうことではなくて、私学と県立とで両方がしっかりと生徒に対しての学びの選択肢を用意していく、いわゆる両方が協力しあっていくものだと思っています。だからと言って県立高校が私学に対して魅力が劣っているとは逆に全然思っていないです。しっかり私学と合わせて選択肢になる学校にしていかなければいけないという意味では、Cさんのおっしゃったような話というのは、私が申し上げていることと重なってるのかなと思います。

その中で、別学・共学というの、どうしても絡んでくることもあるので、主体的に進めていく、そういう判断を打ち出させてもらったということです。

(C)

学びの均等というのは分かったんですけど、それでいろいろな教育の幅を充実させていくということなんですが、高校って別にそういう教育の中身よりも、行事とかそういう表面的なものの方が中心적だと思うんですが。

(依田 高校改革統括監)

そこは、優先順位が多分皆さんの言ってることと私が言ってることで、違いがあるのだと思っています。皆さんは、同性のみの中で生き生きと学ぶその環境こそ重要だっていうことを伝えたいという事はわかっています。そこは間違いなく、県教育委員会の中で皆さんの意見をしっかりとお伝えします。皆さんの意見が強くあったことは承知しました。

(C)

理念は良いと思うんです。

でも、税金払ってるのを私たちじゃないですか。親ですけど。

それに対して県民の理解はなかなか、推進はまあ理解できると思うんですけど、なかなかあんまり、それに費用とかも考えていったときに、あんまり意識されないんじゃないかって思います。

(依田 高校改革統括監)

県民の理解は重要ですよ。県民の理解が得られないような教育政策というのは、Cさんの言うように進められないでしょうね。県民の考え方、意見は、皆さんの意見も含めて。今週の土曜日には、県内在住の方からの話も伺っていきますし、そういった方の意見はしっかりと聞いていく必要もあります。私たちは行政ですから、県民の意見は無視できないというのは当然のことだと思います。

(C)

はい、ありがとうございました。

(A)

よく言葉にされてたかなと思うのですが、男性と女性で別々の教育をするという考えはないと、このご時世におそらくあのそのような発言をせざるを得ないと思うのですが、男性と女性って、体の作りとかでやっぱり性的な違いっていうのはあるわけじゃないですか。その上でも同じ教育ができると考えているということで大丈夫ですかね。

(依田 高校改革統括監)

考えています。男性と女性のそういう体の違いであるとか、男性のと女性での違いというのはある部分もあるし、ない部分もあると思っています。学校教育を進める上では男性、女性という属性で分けるのではなくて、個々一人一人の能力と希望を踏まえるべきだという考え方を持っています。

(A)

はい、ありがとうございます。

(G)

本日の議事録はどこに公開されますか。

(依田 高校改革統括監)

おそらく県教育委員会のホームページになります。県教育委員会の教育委員には議事録を当然読んでもらうわけですが、皆さんの意見を中心に、私たちが教育委員の方々に報告をする場がまた別にあります。個人情報や伏せた公開するものについて、皆さんに見ていただくことになります。正式な議事録は、BさんはBさんのままですけども、個人の名前が記載された正式な議事録が県教育委員会に保管されます。

ホームページに載る時には個人情報がない形のものが載ります。

(E)

男女別学にも意義があるし、共学にも意義があるっていうことでしたが、それを比べた時に、共学のほうが意義があるということで大丈夫でしょうか。

(依田 高校改革統括監)

意義が大きいという言い方はしていないのだけれども、結論的にはそういうことになります。県教育委員会は男女がともに学ぶことが望ましいと思っています。それは男女別の教育をしないで同じ教育をするのに共に学んだ方が同じ教育ができるからだと思っています。

(E)

別学校でも同じ教育をすることは、可能だと思うんですけど、それは県教育委員会側に委ねられてると思うんですけど、別学を残した上で同じ教育をするっていうのは不可能なんでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

今そういうふうになっていると思っています。

(E)

同じ教育はできているということでしょうか。

(依田 高校改革統括監)

できてるかできていないかは、皆さんの方がよく分かっていると思いますが、県教育委員会は男子校も女子校も共学も別の教育をしていると思っていません。

(E)

私は、女子校しか知らないので、男子校については知らないし、共学についても知らないです。

(依田 高校改革統括監)

できていると思います。

同じ学びをするのに、男子校と女子校に分けて学びを提供することに、積極的な意味を持っていないと考えている、ということです。男女が共に学ぶことが望ましいと思っているのですけれども、別学に意義がないとか意味がないなんて思ってはいないですし、別学の意義はあると思ってますし、別学の特長も理解をしています。今日もたくさん皆さんから別学のお話を聞いたことは、そのままそのとおりだと私は思います。ただ共学も別学も課題はあるので気をつけていきたいと思っています。いいですか。

(E)

大丈夫です。

(依田 高校改革統括監)

はい。時間をオーバーして申し訳ございませんでした。今日はありがとうございました。